

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 4 月 7 日

【評価実施概要】

事業所番号	401500019		
法人名	有限会社 ふれあい		
事業所名	グループホーム ふれあい		
所在地	大牟田市大字田隈766-5 〒837-0916 (電話) 0944-41-8210		
評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会		
所在地	福岡市中央区荒戸3-3-39		
訪問調査日	平成20年4月2日	評価確定日	平成20年5月9日

【情報提供票より】(平成 20 年 2 月 19 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 18 年 5 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人 常勤	4 人 非常勤	6 人 常勤換算 6.8 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り 3 階建ての～ 2 階部分		
------	-----------------------------	--	--

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	円	
...	有(円)	無		
保証金の有無(一時金を含む)	有(円)	有の場合償還の有無	有 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日あたり		1,150 円程度	

(4) 利用者の概要(3月 1日現在)

登録人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護 1	5 名	要介護 2	0 名		
要介護 3	2 名	要介護 4	2 名		
要介護 5	0 名				
要支援 1	0 名	要支援 2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低 68 歳	最高	94 歳	

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	・医療法人 幸親会 有明病院 ・山下歯科医院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成17年、旧炭鉱地の大牟田市のある産婦人科医院が廃業された。地域住民にとって思い出のあるこの3階建ての建物を何とか活かそうと、高齢者アパートを開設し、追ってH18年5月、地域の認知症高齢者の在宅生活を支援したいという思いを持って、グループホームふれあいが開設された。大牟田市は、地域の事業者連絡会等を通じてさまざまな情報交換や交流の場を頻りに設けている。同事業所も地域の他の事業所と連携しながら、利用者本位とは何かという本質に対して真摯に向き合い、利用者の生きがいや幸せな暮らしに着眼した、細やかで温かい支援を行なっている。調査当日に話を伺ったリビングは元の分娩室の場所にある。ここで産声をあげた一人が現在は職員として従事している。その話を聞くうちに、うたた寝をした利用者に職員がそっと毛布をかける様子は感慨深く、地域ならではのつながりを改めて感じさせられる事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価結果について家族会及び運営推進会議時に報告を行い、職員へは勉強会やミーティング時に内容を周知し、改善についての協議を行うなど、質の向上への取組みがある。この過程で理念の作成、地域との交流や運営推進会議への取組み、エレベーターの設置、浴室・脱衣所の改修などの成果が見られている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の自己評価にあたり、目的や項目について職員への周知をはかり、ミーティング時において職員全員で話し合い自己評価を行い、事業所の現状と今後の課題等の理解に努めている。この過程においてアンケート実施や近隣の交番との交流機会の確保等についての提案や計画が協議されている。
重点項目	運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 利用者、町内代表、民生委員、家族会会長・副会長 保健福祉部職員 包括支援センター職員、校区PTA代表を招いて2ヶ月毎に開催している。会議では、外部評価の結果報告や改善策、地域行事の情報提供や交流活動への提案、事業所の行事や活動報告、利用者の状態報告等がなされている。又、会議終了後、議事録を作成し、各委員に送付している。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9) 家族の面会時に直接意見や苦情が言いやすいような雰囲気づくりへの工夫がある。又、3か月に1度開催している家族会でも、意見や苦情が表出しやすいようにシステムの改善等を計画している。苦情収集の方法としてアンケートの実施を計画したが、家族会での協議の結果、家族側からの意向で今回は見送るなど、家族の側に沿った支援への取組みがある。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の自治会へ加入し回覧板回しや、公民館の清掃活動、小学校の「どんど焼き」行事等に参加している。又、地域の農協や商店の利用や選挙時の投票など地域との交流の機会を積極的に捉え、かかわりを意識して運営に取り組んでいる。

2. 調査報告(詳細)

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	職員各々の思いや考えを、皆で検討しながら、理 念を作り上げている。利用者と共に寄り添い安心して楽 しく暮らせる事を理念として「五つのわ(和・輪・私・ 笑・話)」を掲げており、地域のなかでその人らしく 生活することを支える取組みがある。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	玄関に理念が掲示されており、違和感なく自然と 目に入る工夫がある。利用者同士の輪や対話を重 視したケア、笑いに繋がる話や、近所への外出な ど、日々のケアを通じて理念の共有と実現にむけ ての取組みがある。		
2 地域との支え合い					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流すること に努めている	地域の自治会へ加入し回覧板回しや、公民館の 清掃活動、小学校の「どんど焼き」行事等に参加し ている。又、地域の農協、商店の利用や選挙時の 投票など地域との交流の機会を積極的に捉え、か かわりを意識して運営に取り組んでいる。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	前回の評価結果について家族会及び運営推進 会議時に報告を行い、職員へは勉強会やミーテ ィング時に内容を周知し、改善についての協議を行 うなど、質の向上への取組みがある。今回の自己 評価にあたり職員全員で話し合い、事業所の現状 と今後の課題等の理解に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	各運営推進員を招いて2ヶ月毎に開催している。会議では、外部評価の結果報告や改善策、地域行事の情報提供や交流活動への提案、事業所の行事や活動報告、利用者の状態報告等がなされている。又、会議終了後、議事録を作成し、各委員に送付している。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所主催の豆まきや秋まつり、運営推進会議への行政担当職員の参加や介護相談員の受入れ等を通じた連携がある。また市主催の行事や研修会、事業者会や不在者投票等に参加し交流の機会の確保に取り組んでいる。		
7 追加	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	必要時に説明できる様にパンフレット等を準備している。管理者は外部研修に参加し職員への勉強会や周知を行っている。現在1名の利用事例があるが、全利用者及び家族、地域にむけての説明等は未実施である。		運営推進会議等を利用して、制度の正しい理解と周知に努め、必要な時に確実に利用できるような支援と、職員全体が一層の制度の理解を深めるための取組みを期待します。
4 理念を実践するための体制					
8 (7)	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に日頃の暮らしぶり、預り金の用途や残高等について報告を行なっている。又2ヶ月毎に行事写真を添えた便りの送付や、定期的な家族会も開催し、意識的に家族がホームを訪れる機会を確保し、利用者と家族との関係性を深めるための働きかけが行われている。		
9 (8)	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が直接、意見や苦情が言いやすいような雰囲気づくりへの工夫がある。又、家族会でも、意見や苦情が表出しやすいようにシステムの改善等を計画している。アンケートの実施を計画したが、家族会での協議の結果、家族側の意向で今回は見送るなど、家族の側に沿った支援を実践している。		
10 (9)	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は極力回避し、緊急的な欠員の確保については併設の事業所の職員が対応するなど利用者との馴染みの関係が継続できるように支援している。新しい職員が入る時は管理者や他の職員が細やかに助言を行い、まずは利用者一人ひとりとの関係が円滑に馴染んでいく様に取り組んでいる。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援					
11	19 追加	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用については、年齢や性別などによる制限はなく、法人採用の職員が、適性等を考慮され事業所配属となる。職員が楽しいと思う職場づくりを目指し、職員の特技を生かしてケアを行ってもらうなどの配慮がある。資格取得を目指す職員に対しては勤務ローテーションの調整を行うなどの支援体制がある。		
12	20 追加	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	市主催の研修に参加し人権学習の機会を確保する等の取り組みがある。事業所内での勉強会の開催や啓発活動への取り組みは今後の課題である。		人権学習の研修や行政等で行われる講話会への継続的な参加や勉強会の開催等、さまざまな機会を利用して人権教育や啓発活動への取り組みを期待します。
13 (10)	21 (19)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や資格取得の準備研修など希望に応じて休みを調整するなど参加の機会を確保している。外部研修参加後は、受講報告会を行い、知識の共有に努めたり、医師を招いての勉強会の開催など職員の資質の向上に向けての取り組みがある。		
14 (11)	22 (20)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に参加しており、協議会主催での勉強会や研修等を通じて質の向上への取り組みがある。又地域のグループホーム事業所との連携のもと、職員による事例発表検討会を開催するなど、交流を通じてサービスの質の向上への取り組みがある。		


外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15 (12)	28 (26)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居直後の利用者に対しては初期対応として「特別なかわり」を認識し、家族、職員とのかわりを多く持ち、精神的な安定が得られる様に取り組んでいる。他の利用者との関係は、それぞれの個性を尊重し、ゆっくりと自然と馴染んでいけるように見守りながらの支援を行なっている。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16 (13)	29 (27)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の自宅の畑の高菜の収穫、高菜漬けの漬け方など、利用者本人から学ぼうとする姿勢や体制がうかがえる。また、食後の「美味しかったよ」の言葉かけ等、職員も利用者も日々の会話を楽しみながら相互の存在を支えあう関係を築いている		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1 一人ひとりの把握					
17 (14)	35 (33)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を採用し、まずは、家族や知人など利用者にまつわる人々からの情報収集を行っている。利用者に対しては、思いや意向と同時に「心配事」の把握に努め、詳細な記録と情報を共有し、心配事がある場合には解消に向けて職員全員で協議する等の取り組みがある。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18 (15)	38 (36)	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	家族会や面会時の声かけ等を通じて、家族の希望や思いの把握に努め、カンファレンス時に職員全員で意見交換を行い、介護計画を作成している。介護計画の内容は、利用者の暮らし方や出来る事に加えて、心配事の解消や生きがいの実現に着目した生活全般を支援する内容である。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19 (16)	39 (37)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行う とともに、見直し以前に対応できない変 化が生じた場合は、本人、家族、必要 な関係者と話し合い、現状に即した新 たな計画を作成している	3ヵ月毎に家族会を開催し、モニタ リング表等を提示しながら、家族の 意見や要望を確認している。認定更 新時や2ヶ月に1度カンファレンス を開催しての定期的な見直し、状 況の変化に応じての介護計画の作 成等が行なわれている。		利用者全員に対して、心身状況の 変化の有無に関わらず、月に1度 程度は新鮮な観点から、本人や家 族の「現在」の意向や状況を確認 し、職員間で情報や意見を交換し あう機会の確保を期待します。
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
20 (17)	41 (39)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の多機能 性を活かした柔軟な支援をしてい る	県外に住む親族への訪問や、家 族が同行できない場合の受診付 添い等、利用者・家族の要望に 沿って柔軟に支援している。また、 地域の高齢者の見守りを通じて 馴染みの関係をつくっていく計 画等、地域や自治体と相談しな がらの取り組みがある。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21 (18)	45 (43)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切 にし、納得が得られたかかりつ け医と事業所の関係を築きなが ら、適切な医療を受けられるよ うに支援している	契約時に利用者及び家族の意向 を確認し、希望に沿って支援し ている。かかりつけ医の受診は 家族が対応しているが、担当医 とは連携を取り、状況に応じて の専門医への受診を相談する などの体制がある。週1回の歯 科往診や口腔ケアの実施指導 等、歯科とも連携をとっている。		
22 (19)	49 (47)	重度化や終末期に向けた方針の 共有 重度化した場合や終末期のあり 方について、できるだけ早い段 階から本人や家族等ならびにか かりつけ医等と繰り返し話し合 い、全員で方針を共有している	利用契約時に予め、事業所自 体では医療行為が出来ない事 を利用者・家族に説明し同意を 得ている。重度化や終末期の あり方については、全利用者・ 家族の意向の確認までは至 っておらず、現在センター方 式の採用と並行して取組みに 着手している。		事業所としての方針の説明・同 意と並行して本人や家族の「意 向」を早い段階で聞き取る取 組みを期待します。また、その 都度の状況と照らし合わせて、 意思の確認を行い、具体的な 手順と合意をもって関係者全 員での方針の共有を期待しま す。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23 (20)	52 (50)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	方言でありながらも利用者の尊厳やプライバシー が損なわれることなく、温かみのある優しい表現で の言葉かけや接し方の工夫がみられる。外出時に おいても故意なプライバシーの侵害等を防ぐ様に 配慮している。個人情報や記録類は、事務所で管 理が徹底されている。		
24 (21)	54 (52)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	利用者ごとの生活リズムに配慮し、日々の過ごし 方、食事や入浴のタイミング、居室やリビングでの過 ごし方など、その日その時の利用者のペースを尊重し た支援をしている。調査当日も昼食後、リビングでう たた寝する利用者に職員がそっと毛布をかける 等、ゆったりと過ごされる様子が伺えた。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25 (22)	56 (54)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員と一緒に準備や食事、片付けを している	週に数回、利用者の好みの食事を作る日を設け 職員と利用者が協力して調理や準備を行なってい る。普段の食卓にも利用者と職員が協力して作っ た漬物や梅干等が並び、皆で同じテーブルを囲み ながら、和気あいあいと食事を楽しめる工夫があ る。		
26 (23)	59 (57)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてし まわずに、一人ひとりの希望やタイミ ングに合わせて、入浴を楽しめるように支 援している	毎日午後からの入浴が可能である。入浴の頻度 や時間等はその都度、利用者の希望を聞き、間隔 や、身体への負荷が極端にならない様に支援して いる。原則的に1名づつの入浴であるが、他の利用 者との入浴を希望される場合は2名で仲良く入っ ていただくなど柔軟に対応している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27 (24)	61 (59)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活か した役割、楽しみごと、気晴らしの支援 をしている	散歩や仏壇の花買い、食事の準備や後片付け、 ドライブ、利用者所有の畑へ出かけるなど、利用者 の気持ちに沿った役割や気晴らしに対する支援が ある。また、利用者の「心配事」に着眼し本人が抱 えている内面的な不安の解消について取り組み、穏 やかな日々を過ごせる様に支援している。		
28 (25)	63 (61)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひ とりのその日の希望にそって、戸外に出 かけられるよう支援している	エレベーターを設置し、車椅子や歩行器の使用 状況にかかわらず自由に外出できる機会を確保し ている。花見や行楽など月2回の行事外出の他に も、日々の散歩、買い物など、その都度の要望に 応じて戸外へ出かけられるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29 (26)	68 (66)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る	施錠は夜間のみであり、日昼は開錠されている。 外出傾向があれば、その都度、職員と一緒に外出 するなど利用者の自由な暮らしを支える取組みが ある。		
30 (27)	73 (71)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身に つけ、日ごろより地域の人々の協力を得 られるよう働きかけている	年2回の消防署の指導による防災訓練を建物全 体で実施し、具体的な指導を受けるなど、併設する 有料老人ホームと協力しての災害への取組みがあ る。地域協力を得るための働きかけはこれからで ある。		非常災害時における協力体制や緊急連絡網の 作成など、運営推進会議での提案等を通じて、地 域との協力体制作りへの取組みを期待します。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31 (28)	79 (77)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	併設する厨房の栄養士が栄養価やバランスを考慮 して献立を作成・調理し提供している。週に数回は ホームで手作りし、利用者の好みや食習慣にも対応 できるように支援している。食事摂取量は毎回記 録し、水分摂取については必要に応じて観察や水 分補給を促すなどの支援がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32 (29)	83 (81)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは自然採光、自然換気で程良く調整され 心地良い。リビングをはじめ共有空間には数台の ソファが設置されており利用者、職員ともゆっく りくつろげる間取りとなっている。壁面の飾りや季 節の野の花が飾られるなど、居心地よい空間づ くりへの工夫がある。		
33 (30)	85 (83)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みのものを活かして、本人が居心地よ く過ごせるような工夫をしている	居室には寝具、調度品、仏壇や位牌等が持ち 込まれており、毎日の仏壇の水かえ等、以前の 生活習慣を続けながら、安心して過ごすための 工夫が見られた。また利用者・家族の希望に よって居室内に畳や衝撃吸収マットを敷くなど安 全かつ快適に過ごせるように支援している。		

 は、重点項目。
(数字)は、国の標準例による番号